

.....

午前11時02分 再 開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、10番議員の一般質問を許します。10番門脇直樹君。

○10番（門脇直樹君） おはようございます。久々の一般質問で大変緊張しております。よろしく申し上げます。

10番、通告に従いまして、茂木町との災害協定の考えについて町長に質問いたします。

7月14日から降り続いた長雨は、当町に甚大な土砂崩れや断水等、被害をもたらしました。その豪雨の最中、7月16日早朝、茂木町古口町長より、被害を知り、何かできることはないか、手伝えることがあったら何でも言ってほしいと連絡がありました。その時点では被害状況もまだ把握しておらず、何をしてもらったらいいか分からない状態だと伝えましたが、7月18日には、峰浜地域の断水を知り、すぐ支援物資を積んで八峰町に19日朝9時に着くように職員を向かわせると連絡がありました。自分も19日朝9時に合わせて役場に向かい、備蓄倉庫へ飲料水500ミリリットル1,008本、給水パック6リットル入り3,000枚の搬入を手伝いました。そのほか義援金5万円もいただきました。本当にありがたいことでもあります。

ここで、茂木町古口達也町長との繋がりを説明したいと思います。

平成23年11月、当時日本で一番元気のある町長とメディアに取り上げられていた町長と茂木町を見てみたいとの思いで、教育産業常任委員会で視察を企画し、その人柄に接し、朝から夕方の懇親会まで付きっきりの手厚い歓待を受けてきました。その翌年、平成24年3月、東日本大震災が発生し、茂木町では原木しいたけを栽培していましたが、風評被害で立ち行かなくなり、当町の菌床しいたけを視察に古口町長が訪ねていらっしゃいました。そして平成26年2月には、産直おらほの館の皆さんが茂木町の道の駅を見たいと視察に行った際にも手厚い歓待を受け、感激したと報告を受けました。同年9月には、おらほの館のイベントに合わせ、古口町長ほか7名の職員の方々が来町し、とちおとめ等の特産品の販売を行い、物流の交流も始まりました。そのような深い交流を構築してきたことが今回の支援に繋がったものと思います。このたびの温かい支援を受けて、秋田県沿岸部と栃木県山間部とでは異なる環境、地域性ではありますが、災害有事の際にはお互い助け合える支援の手を差し伸べることができる関係が必要と思い、災害協定を提案しました。町長の私の意を酌んだ前向きな答弁をよろしく申し上げます。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの10番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） 門協議員のご質問にお答えいたします。

災害発生時における復旧支援に関する協定等につきましては、災害時の各種応急復旧活動に要する人的・物的支援について、自治体同士や民間事業者等との間で締結することにより、非常時においても迅速な支援を受けることが可能となるものであります。

町では、これまでに国土交通省や秋田県、能代市山本郡医師会など21件の災害協定を締結しており、このたびの豪雨災害においては、能代市と大館市から給水車両の貸し出しと給水作業の人的支援があったほか、町建設業協会等からは水道管や道路、河川等の応急復旧にご尽力を賜るなど、多くの関係者からご支援をいただいたところであります。

また、八峰町だけでなく、この数年は、三種町や五城目町など県内の各自治体においても甚大な被害が発生していることを踏まえ、今後、県町村会として、災害時に緊急応援が可能な町村による相互応援活動等を円滑に遂行するための協定書を作成することとしております。

一方で、これまでも議会や産直会等において交流のあった栃木県茂木町からは、今般の災害時において、町担当者が陸路8時間をかけて飲料水と給水パック、さらには災害見舞金を届けていただいたところであり、改めて本町と茂木町の関わりの深さを認識いたしました。

また、9月4日には、茂木町周辺で時間雨量100mmの記録的豪雨となり、複数の土砂崩れが発生したとの報道があったことから、私自ら古口町長に連絡を入れ、お見舞いを申し上げたところであります。

積雪寒冷地で日本海側に位置する本町と、太平洋側の内陸部に位置する茂木町は、気候が異なることや距離が離れていることを考えると、大規模災害時において同時に被災する可能性が低いことから、災害時応援協定を締結する相手先として理想的であります。

しかしながら、これまでの両町の関わりや交流実績等を踏まえると、災害に限定した協定ではなく、幅広い分野において相互交流を行うことが重要であると考えていることから、今後は両町による姉妹都市提携を見据えた検討を進めてまいります。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。10番門脇直樹君。

○10番（門脇直樹君） 町長の答弁のとおりであります。災害協定に固執した一応、通

告は災害協定であります、それに固執した質問ではなくね、何かあった時お互いに手を差し伸べられる関係、まあ今までもそうしてきましたが、その関係の構築ですね。

私たち年代は、諸先輩から「貸した金は忘れても、借りた恩は忘れるな、必ず返せ」と教えられてきました。私は、貸した金も忘れません。その恩を返す時も、これみよがしに返すのではなくね、相手が困ってる時に慎み深く遠くから手を差し伸べるのが本当の恩返しだと思います。その気持ちを忘れないで私たちも今までやってきましたし、是非当町からもその思いを茂木町に届けていただきたいと思います。

まあもちろんこの災害協定であれ、友好協定であれ、姉妹協定であれ、相手がいることなので、相手がそこまで要らないって言われればそれまでなんですが、その辺を何とか堀内町長と古口町長で前向きな検討をしていただきたいと思います。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 門協議員の再質問にお答えいたします。

まずですね、先ほど申し上げましたとおり、今般の災害を受けまして、向こうの役場職員がですね陸路8時間かけて、見舞金、あるいは給水パック等ご支援いただいたところであります。まずはこのお礼を兼ねてですね、近いうちに私自ら古口町長にお会いしてですね、そのお礼を述べたいなというふうに思ってます。その際にですね、今日答弁で申し上げましたような姉妹都市提携、これをですね結びたいという私の思いも伝えまして、必要な事務的な作業、そういったところを順次進めていながら、できればですね、古口町長の経歴を見たら今6期目のそろそろ折り返しぐらいなるかと思えますけども、いずれ早いうちにですね私と古口町長との間で姉妹都市提携を結びたいなというふうに考えておりますので、皆様からもそういったところのご指導いただければ幸いに存じます。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。10番門脇直樹君。

○10番（門脇直樹君） 答弁ありがとうございます。茂木町に行く際には、多分私も同行した方がいいのではないかと考えております。当時日本一元気のある町長と言われた古口町長ですが、堀内町長からは日本一元気があって行動力のある町長を目指していただきたいと思います。

以上、質問を終わります。

○議長（皆川鉄也君） これで10番議員の一般質問を終了します。